

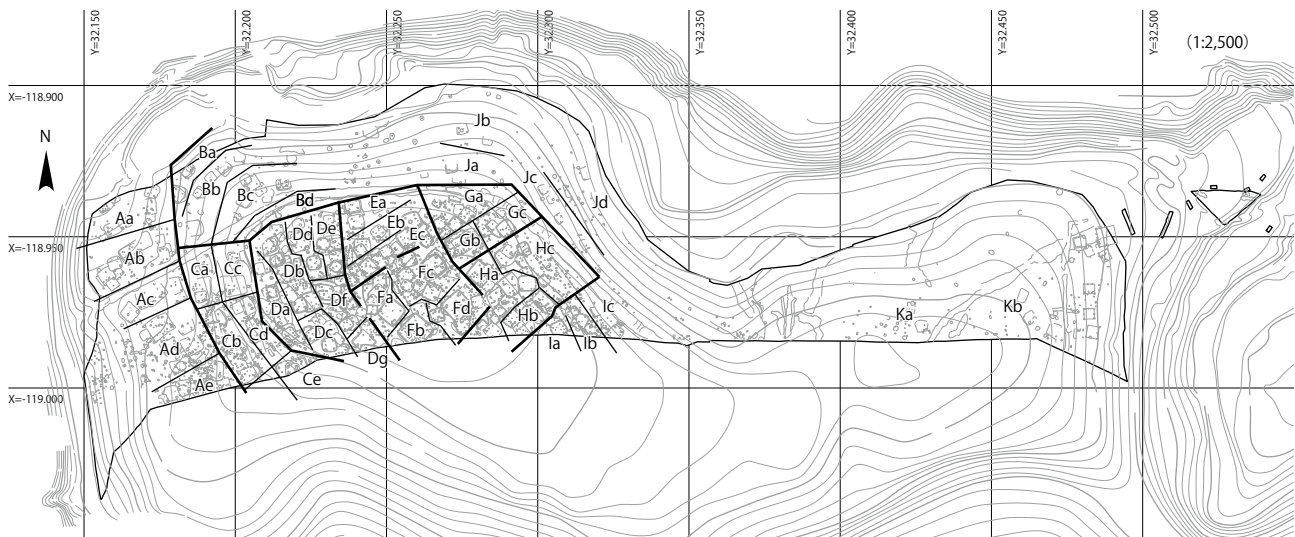
III. 刊行報告書抄録

第189集 石座神社遺跡

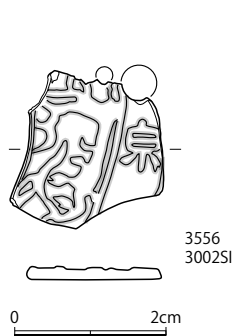
遺跡は断上山丘陵上、東西約300m、南北約100mの範囲に展開する弥生時代後期から古墳時代前期の集落を主体とする。集落は竪穴建物334棟、掘立柱建物8棟から構成され、建物群には大型竪穴建物、布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物も含まれる。検出された建物群は集落研究の基礎資料、良好に出土した土器群は土器編年の基準資料としての価値が高い。破鏡と鉄剣、鉄斧、ヤリガンナ等の豊富な鉄製品、水銀朱付着土器5点の出土も注目される。集落の展開は同一丘陵上の前方後方墳の断上山10号墳が築造に帰結する。

その他、縄文時代の珧状耳飾り2点、設楽原の戦いに関連した可能性がある鉛製鉄砲玉5点が出土した。

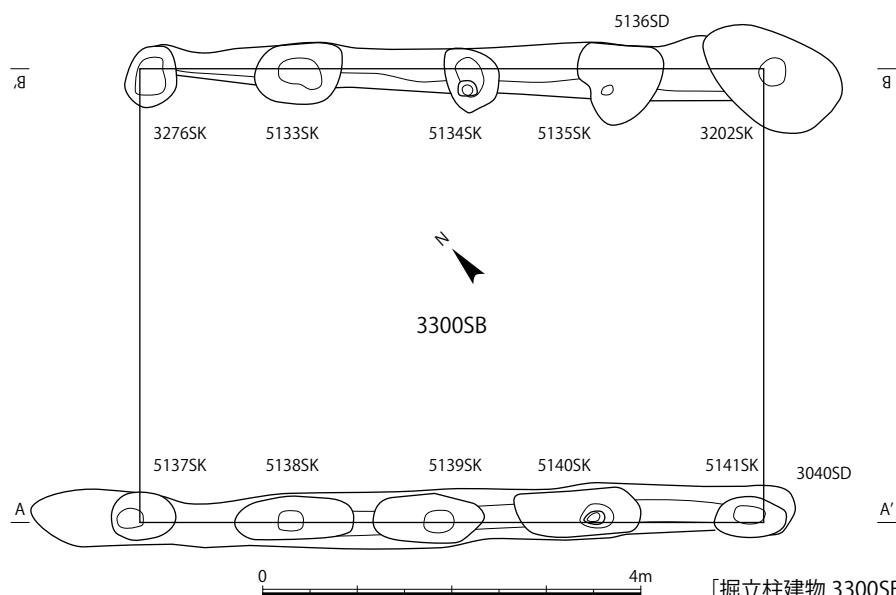
(早野浩二)



〔弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物群の配置〕



〔3002SI 出土破鏡〕



〔掘立柱建物 3300SB〕

報告書抄録

ふ り が な	いわくらじんじやいせき
書 名	石座神社遺跡
副 書 名	
巻 次	
シ リ ーズ 名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第189集
編 著 者 名	早野浩二 川添和暁 中村賢太郎 山形秀樹 小林克也 西田京平 平尾良光 堀木真美子他
編 集 機 関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161
発 行 年 月 日	西暦2015年3月31日

ふ り が な 所 収 遺 跡 名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いわくらじんじやいせき 石座神社遺跡	あいちけんしんしろし 愛知県新城市 おおみやあざぎつねづか 大宮字狐塚	23221	76045	34度	137度	2007.05.14 ～2007.06.13	400	第二東海
				55分	31分	2008.09.09 ～2009.03.24	5,200	自動車道
				38秒	10秒	2009.08.06 ～2010.03.31	4,720	横浜
						2010.05.21 ～2011.03.14	10,330	名古屋線

所 収 遺 跡 名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石座神社 遺跡	集落	旧石器時代	小支谷	石器	ナイフ形石器を含む 旧石器の出土
		縄文時代	炉穴・竪穴建物・土坑	縄文土器・石器・石製品	有溝砥石、珓状耳飾り 2点、石刀の出土
		弥生時代	竪穴建物	弥生土器	弥生時代後期から古墳 時代前期の大規模集落
		古墳時代	竪穴建物・掘立柱建物	土師器・石製品・金属製品	大型竪穴・掘立柱建物 破鏡・鉄製品の出土
		古代	竪穴建物・掘立柱建物	土師器・須恵器	斜面に立地する集落
		中世・戦国	大溝・土坑墓	土師器・山茶碗・金属製品	馬埋葬土坑 鉄砲玉5点の出土
		近世・近代	炭焼窯	陶器	

文 書 番 号	発掘届出(19埋セ第2号・2007.4.6/20埋セ第32号・2008.6.24/21埋セ第10号・2009.4.1/21埋セ第136号・2010.3.10) 通知(19教生第154号・2007.4.25/20教生第952号・2008.7.10/21教生第142号・2009.4.15/21教生第2581号・2010.3.23) 終了届・保管証・発見届(19埋セ第36号・2007.6.18/20埋セ第125号・2009.4.2/21埋セ第151号・2010.4.2/22埋セ267号・2011.3.25) 鑑査結果通知(21教生第317号・2009.5.14/22教生第547号・2010.6.11/23教生第45号・2011.4.7)
---------	--

要 約	断上山丘陵上、東西約300m、南北約100mの範囲に弥生時代後期から古墳時代前期の集落が展開する。集落は竪穴建物334棟、掘立柱建物8棟から構成され、建物群には大型竪穴建物、布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物も含まれる。検出された建物群は集落研究の基礎資料、良好に出土した土器群は土器編年の基準資料としての価値が高い。破鏡と鉄剣、鉄斧、ヤリガンナ等の豊富な鉄製品、水銀朱付着土器5点の出土も注目される。集落の展開は同一丘陵上の前方後方墳の断上山10号墳の築造に帰結する。その他、縄文時代の珓状耳飾り2点、設楽原の戦いに関連した可能性がある鉛製鉄砲玉5点が出土した。
-----	---

第190集 車塚遺跡

車塚遺跡は岡崎市岩津町に所在する。地形的には矢作川の上位段丘で、北側が急峻な斜面、西と南側が緩斜面となり、これらに囲まれた中央が平坦面となっている。今回の調査区はこのうち中央の平坦面と南側の緩斜面に該当する。

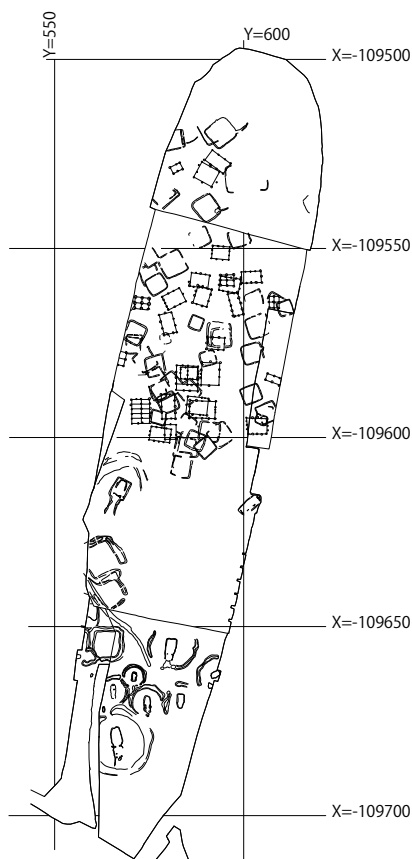
調査の結果、縄文時代・弥生時代・古墳時代後期～奈良時代・中世以降の4時期の遺構が確認された。遺構の多くは中央の平坦面に集中しており、この部分が奈良時代以前の居住域と考えられる。

一方、南側の緩斜面は墓域となり、弥生時代の方形周溝墓と、古墳時代後期以降の横穴式石室を持つ古墳6基と小石室3基が密集して確認されている。小石室の帰属時期が不明瞭だが、古墳・小石室は6世紀後半～8世紀にかけてほぼ継続するものと考えられる。なお、平坦面の居住域との関係も興味深いが、同時期の遺構は調査区内では検出されていない。しかし、遺物は散見でき、調査区外に展開している可能性を残す。

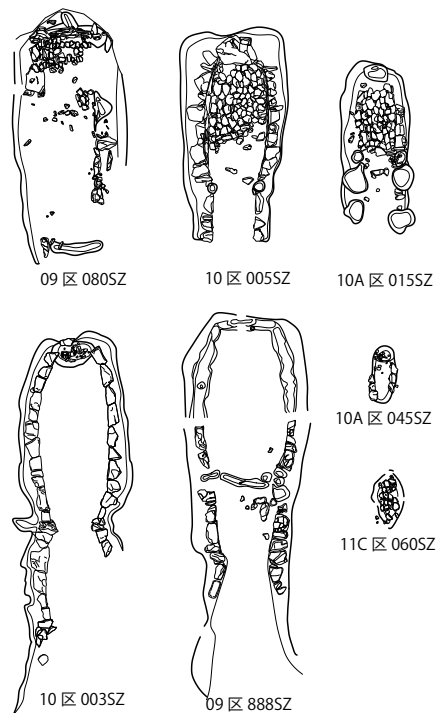
(池本正明)



10A 区全景



遺構図 1:2,000



石室図 1:200

報告書抄録

ふりがな	くるまづかいせき
書 名	車塚遺跡
副 書 名	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第190集
編著者名	池本正明 堀木真美子 川添和暁 鈴木恵介
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567 (67) 4161
発行年月日	西暦2015年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くるまづかいせき 車塚遺跡	おかざきしいわづちょう 岡崎市岩津町 あざくるまづか 字車塚	232025	510024	34度	137度	2009.7.7 ～ 2009.9.5	2000	道路改良工事 岡崎足助線
				0分	10分	2009.9.25 ～ 2010.3.19	4430	
				46秒	23秒	2010.10.6 ～ 2011.2.24	2300	
						2011.6.1 ～ 2011.8.29	800	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
車塚遺跡	集落・墳墓	縄文時代	炉跡	縄文土器・石器	
		弥生時代末～古墳時代初頭	竪穴建物・方形周溝墓	弥生土器	
		古墳時代後期～終末期	古墳	須恵器・金環・鉄製品	
		古代	掘立柱建物・溝・土坑	古代～中世陶器	

文書番号	発掘届出（20埋セ3号 2008.4.8）・（21埋セ54号 2009.8.21）・（22埋セ131号 2010.8.9）・（23埋セ4号 2011.4.4） 通知（20教生241号 2008.4.20）・（21教生1171号 2009.4.20）・（22教生2547号 2011.2.24）・（23教生100号 2011.4.8） 終了届・保管証・発見届（20埋セ70号 2008.9.22）・（21埋セ122号 2010.3.5）・（22埋セ248号 2011.2.10）・（23埋セ69号 2011.8.22） 監査結果通知（22教生726-1号 2010.12.24）・（23教生378号 2011.9.2）
------	---

要 約	縄文時代の遺構は断片的である。弥生時代末～古墳時代初頭では台地の北側縁辺部に竪穴建物、南側に方形周溝墓が展開する。古墳時代では南側斜面を中心に後期～終末期古墳が分布する。前段階の方形周溝墓群と分布域を異にしており注目できる。古代では調査区の中央部を中心に分布する竪穴建物と掘立柱建物で構成される居住域を確認している。
-----	--

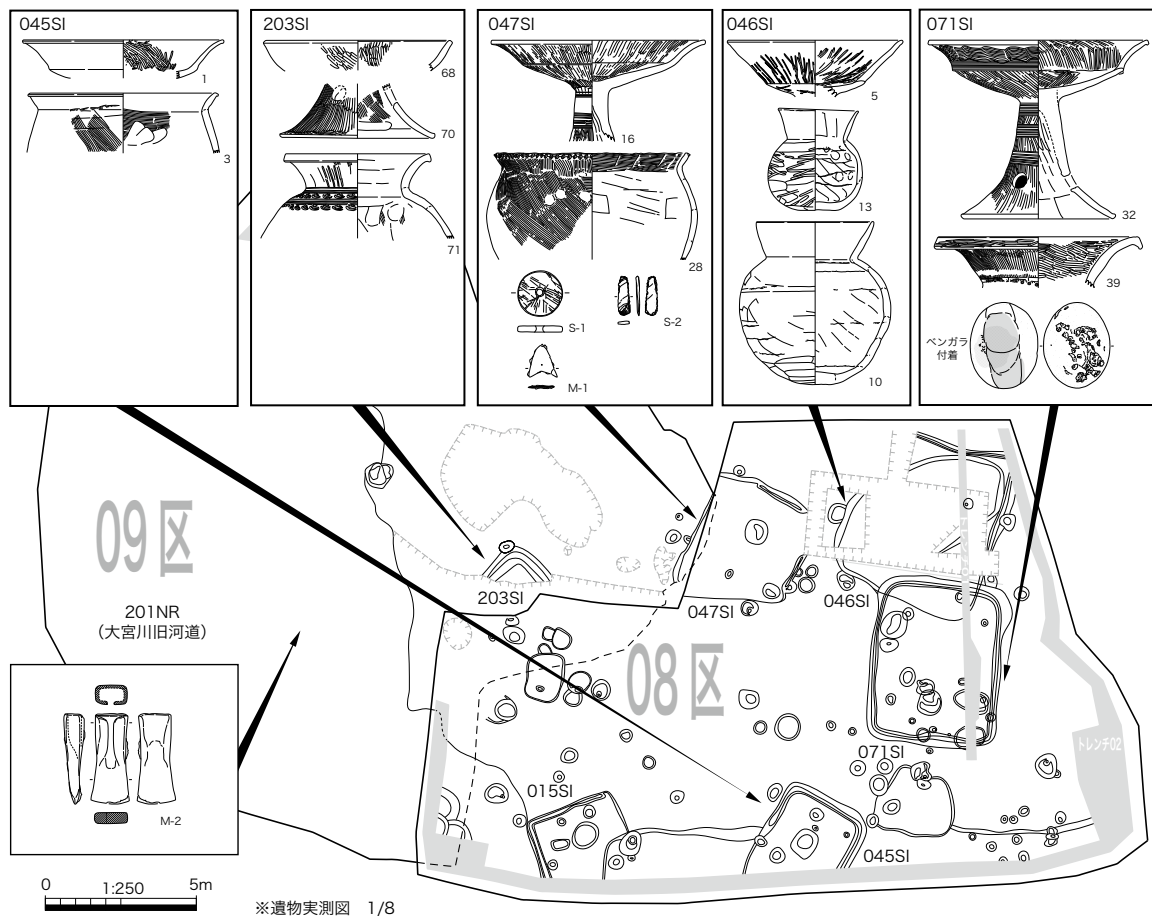
第191集 吉竹遺跡

吉竹遺跡は、新城市牛倉地区に所在する弥生時代後期から古墳時代前期の集落遺跡である。豊川支流の大宮川がつくる谷地形の入り口の台地上に立地する。集落は当該期の竪穴建物6棟が検出されたが、地形などから類推してその範囲は約800㎡に収まり、同時期に1～2棟程度の小規模なものと推測される。しかしながら竪穴建物跡からは、当該期の土器とともに石製紡錘車・無茎の三角形鉄鏃が出土している。また、集落の西から南側では大宮川の旧河道が確認され、ここからは袋状鉄斧が出土している。鉄斧の所属については確定的ではないものの、小さな集落であるにもかかわらず鉄製品を所持している点が注目されよう。

また集落中最大規模の竪穴建物071SIからは、屋根葺材もしくは壁材に使用された可能性が考えられる炭化したイネ科の草本類とシオジ節の木材が出土している。これらは樹種同定とともに炭素年代測定も実施し、2世紀前半～3世紀前半という暦年較正年代を提示し、出土した弥生時代後期の土器群との対比が可能になった。

新城市域では、吉竹遺跡と同時期に展開する集落が多数知られているが、今後はそれらの比較検討が課題になってくると思われる。

(永井邦仁)



吉竹遺跡の弥生後期～古墳前期集落と主要出土遺物

報告書抄録

ふりがな		よしたけいせき						
書 名		吉竹遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第191集						
編著者名		永井邦仁 鬼頭剛 堀木真美子 早野浩二 (株)パレオ・ラボ年代測定分析チーム 小林克也						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2015年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
よしたけいせき 吉竹遺跡	あいちけん しんしろし 愛知県新城市 うしくらあぎよしたけ 牛倉字吉竹	23207	760284	34度 55分 37秒	137度 30分 54秒	2008.5.7～ 2008.6.18、 2009.6.18～ 2009.7.22	600	第二東海 自動車道 横浜名古屋 屋線建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
吉竹遺跡	集落	弥生時代 後期 ～ 古墳時代 前期	掘立柱建物跡、 竪穴建物、 土坑、 旧河道		土師器(高杯・甕・壺)、 石製紡錘車、 鉄斧、鉄鏃、 打製石斧、磨製石斧、 縄文土器		弥生時代後期から 古墳時代前期の 集落遺跡	
文書番号		発掘届出(19埋セ第122号 2008.3.26) 通知(20教生第205号 2008.4.23) 終了届・保管証・発見届(20埋セ第31号 2008.6.24) 鑑定結果通知(20教生第947号 2008.7.14) 発掘届出(21埋セ第9号 2009.4.1) 通知(21教生第141号 2009.4.15) 終了届・保管証・発見届(21埋セ第42号 2009.7.24) 鑑定結果通知(21教生第1097号 2009.8.19)						
要約	当該遺跡は、豊川支流の大宮川が雁峰山地から流出する谷地形の入口に立地している。発掘調査では、竪穴建物5棟、掘立柱建物4棟が検出された。竪穴建物跡からは弥生土器・土師器が出土した他、弥生時代後期の竪穴建物跡からは石製紡錘車と鉄鏃が出土した。集落の一部は後世の洪水によって滅失しており、その旧河道下層からは同時代と推測される袋状鉄斧が出土している。 集落規模は丘陵・台地の端部を占める約800㎡に収まる小さなもので、かつ、その存続時期は弥生時代末期～古墳時代初頭の空白期を挟む、断続的なものである。							

第192集 欠下城跡

欠下城跡は愛知県新城市中央部にある遺跡で、新城市による市指定史跡である。今回の発掘調査では、この史跡指定部分に隣接する地点を調査し、主に平安時代末から戦国時代の遺構と出土遺物が確認できた。

本報告書では、遺構の層序的検討と出土遺物の分析から、遺跡が平安時代後期から始まり、12世紀～13世紀前半に推定される土石流の後に、掘立柱建物・溝・土坑からなる居住域が鎌倉時代から室町時代まで続き、その後史跡欠下城跡のある丘陵との境界となる区画溝が形成されたとする遺構変遷を確認できた。鎌倉時代には調査区の一部で墓域も形成され、発掘調査地点の西に隣接した勅養寺観音堂との関連性も指摘した。新城地域の寺院跡と城館跡との関係を解明する上で、貴重な資料になるものと思われる。

(蔭山誠一)



欠下城跡の中世における遺構変遷 (1:500)

報告書抄録

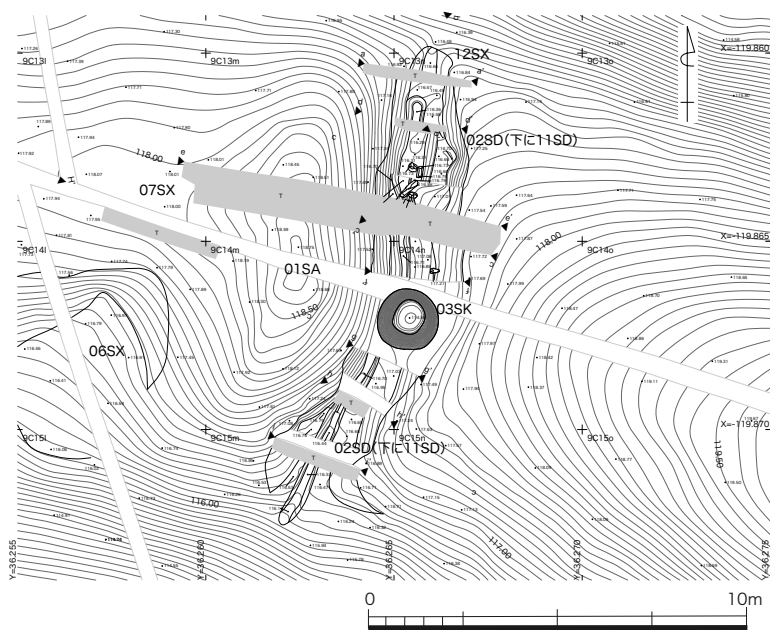
ふりがな		かけしたじょうあと						
書 名		欠下城跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第192集						
編著者名		蔭山誠一 鬼頭 剛 中村賢太郎 小林克也 伊藤 茂 佐藤正教 廣田正史 山形秀樹 小林鉦一						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所 在 地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2015年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
かけしたじょうあと 欠下城跡	あいちけん しんしろし 愛知県新城市 やべあざかけした 矢部字欠下	23221	76175	34度 55分 27秒	137度 30分 17秒	2010.10.25～ 2011.2.25 2011.6.3～ 2011.8.10	4,060	第二東海 自動車道 横浜名古屋線建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
欠下城跡	城館	鎌倉時代、 室町時代、 戦国時代	掘立柱建物2棟、 溝10条、土坑多数、 自然流路5条		灰釉陶器、南部系陶器、 古瀬戸陶器、大窯陶器、 中世土師器、常滑産甕		調査区に隣接する市 指定史跡欠下城跡 と勅養寺旧観音堂と の関連遺跡	
文書番号		発掘届出(22埋セ第137号・2010.8.19) 通知(22教生第1217号・2010.9.7) 終了届・保管証・発見届(22埋セ第266号・2011.3.25) 鑑定結果通知(23教生第98号・2011.4.8)						
要約	本遺跡は、平安時代後期から始まり、12世紀～13世紀前半に推定される土石流の後に、掘立柱建物・溝・土坑からなる居住域が鎌倉時代から室町時代まで続き、その後史跡欠下城跡のある丘陵との境界となる区画溝が確認できた。鎌倉時代には調査区の一部で墓域も形成された。新城地域の寺院跡と城館跡との関係を解明する上で、貴重な資料になるものと思われる。							

第193集 中山砦跡

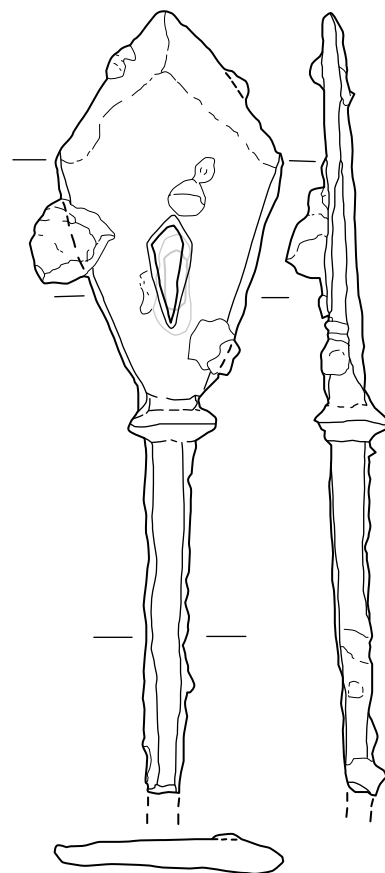
中山砦跡は愛知県新城市東部にある遺跡で、天正3年(1575)にあった長篠・設楽ヶ原の戦いで、武田方の乗本五砦の一つとして文献資料の記録に残る砦跡である。今回の発掘調査により、戦国時代の遺構として、丘陵上に砦側を区切る土塁と堀切が確認され、また出土遺物では、当時の戦いに使用されたと考えられる鉄鏃1点を報告した。

今回の調査成果により、長篠・設楽ヶ原の戦いにおける中山砦跡について、具体的な姿を少し明らかにできた。

(蔭山誠一)



中山砦跡 10A 区の土塁 01SA と堀切り 02SD・11SD (1:200)



中山砦跡出土鉄鏃 (1:1)

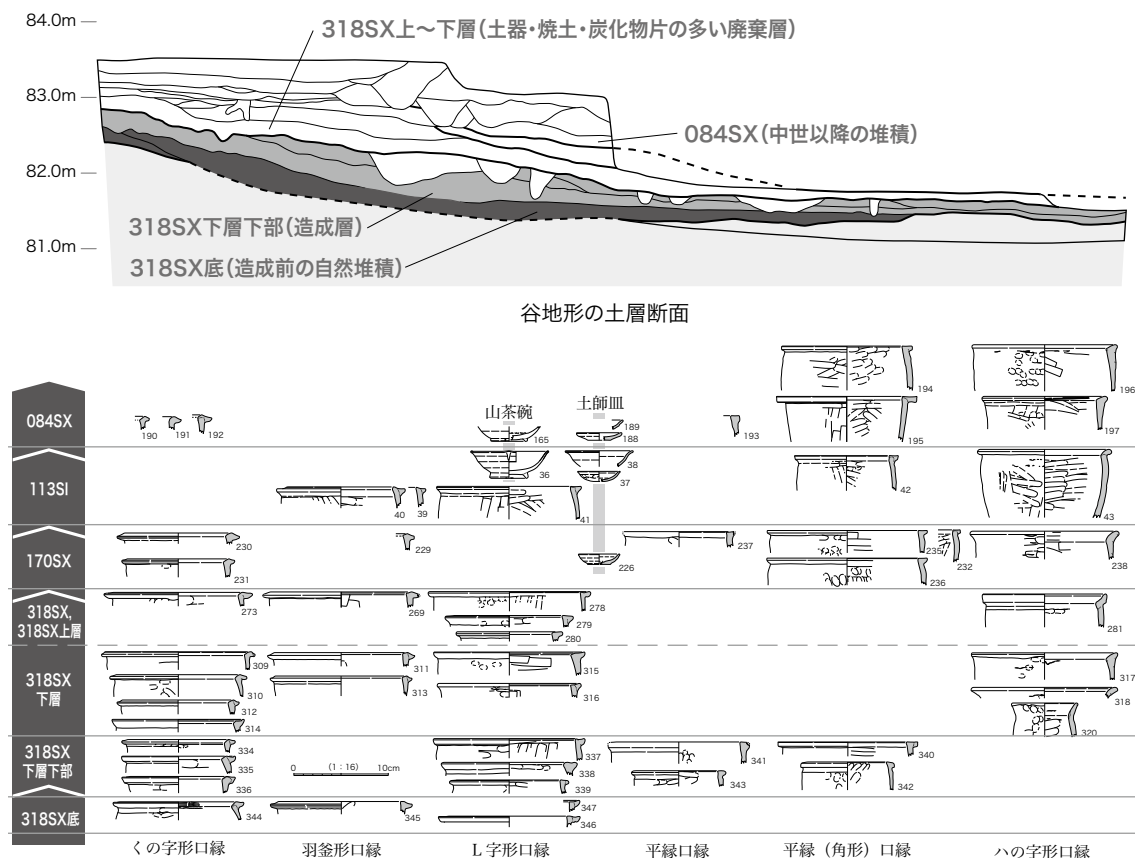
報告書抄録

ふりがな		なかやまとりであと						
書 名		中山砦跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第193集						
編著者名		蔭山誠一						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所 在 地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2015年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかやまとりであと 中山 砦 跡	あいちけん しんしろし 愛知県新城市 のりもと 乗本	23221	773019	34度 55分 07秒	137度 33分 44秒	2010.6.7～ 2010.9.17	2,830	第二東海 自動車道 横浜名古屋線建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
中山砦跡	城館	戦国時代	土塁・溝		鉄鏃		天正三年(1575)五月の長篠城・設楽ヶ原合戦に伴う乗本五砦の一つ	
文書番号		発掘届出(21埋セ第137号 2010.3.10) 通知(21教生第2580号 2010.3.23) 終了届・保管証・発見届(22埋セ第157号 2010.9.17) 鑑定結果通知(22教生第1538号 2010.10.12)						
要約	本遺跡は天正三年(1575)五月にあった長篠城・設楽ヶ原合戦に伴う乗本五砦の一つとして、文献資料において記録されている遺跡で、今回の発掘調査による成果により、戦国時代の可能性が高い遺構と遺物を確認できた。当時の状況を解明する上で、貴重な資料になるものと思われる。							

第194集 加原遺跡

加原遺跡は、新城市大宮地区に所在する。西の丘陵上に石座神社遺跡、東に豊川支流の連吾川を臨む、天正3年(1575)長篠・設楽原合戦の主戦場となった地域の一角でもある。しかしながら検出された遺構は古墳時代初頭の竪穴建物、平安時代中期～鎌倉時代の竪穴建物(竪穴状遺構を含む)と掘立柱建物、小谷地形の埋め立て造成層である。集落の中心となるのは平安時代中期～鎌倉時代であり、谷地形からは灰釉陶器・山茶碗と土師器甕が多数出土している。また、漆の付着した山茶碗や鉄滓・銅製品も出土していることから、当該期の小鍛冶を含む作業場であった可能性が考えられる。

遺物で最も注目されるのは、平安時代中～後期の厚手で短胴な清郷型土師器鍋である。加原遺跡では、12世紀代を中心とする羽釜形以外にも口縁部のくびれがほとんどないものや、平縁形のものがみられた。清郷型については、県内、静岡県、三重県、岐阜県などの伊勢湾岸地域での分布が知られ、今回、これらの出土資料から試料を得て胎土分析を実施した。そのうち断層破碎帯の粘土と海成粘土が混合したものについては、三河湾沿岸・幡豆地域がその材料粘土採取地の可能性が高いと考えられた。(永井邦仁)



加原遺跡における谷地形の土層断面と層位別清郷型鍋の分布状況

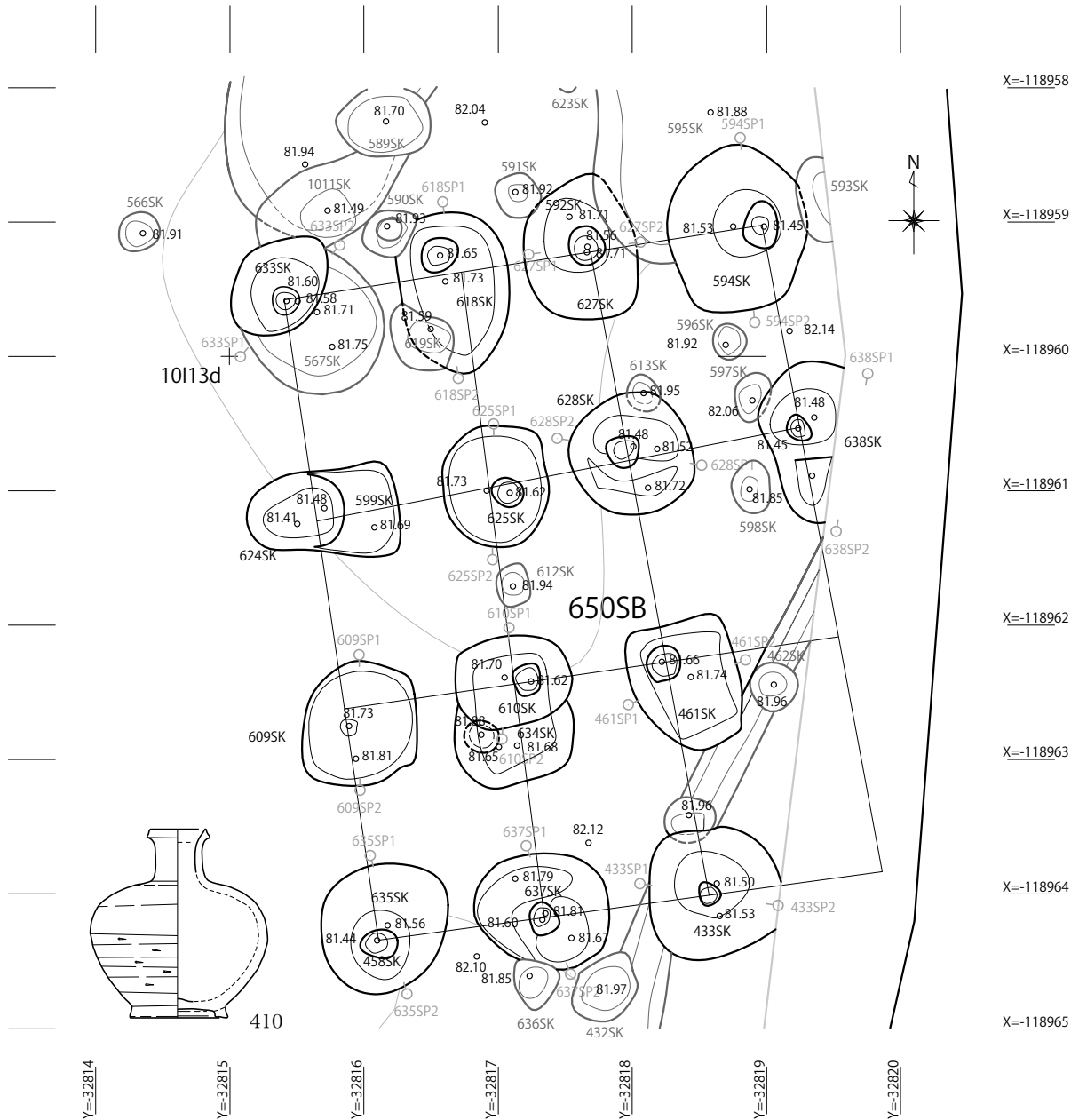
報告書抄録

ふりがな		かはらいせき						
書 名		加原遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第194集						
編著者名		永井邦仁 鬼頭剛 堀木真美子 藤根久 米田恭子 (株)パレオ・ラボ年代測定分析チーム						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2015年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かはらいせき 加原遺跡	あいちけん しんしろし 愛知県新城市 おおみやあざかはら 大宮字加原	23207	760282	34度 55分 37秒	137度 31分 24秒	2008.6.20～ 2008.11.30	2,000	第二東海 自動車道 横浜名古屋線建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
加原遺跡	集落	縄文時代 ～ 鎌倉時代	掘立柱建物跡、 竪穴建物、 土坑等、 谷地形		縄文土器、石器、 土師器(高杯・甕・壺)、 須恵器(蓋・杯・甕)、 灰釉陶器(椀・皿)、 緑釉陶器、白磁、山茶碗、 土師器(椀・皿・甕)、 鉄滓、銅滓、		平安時代から 鎌倉時代を中心 とする集落遺跡	
文書番号		発掘届出(20埋セ第20号 2008.5.26) 通知(20教生第631号 2008.6.6) 終了届・保管証・発見届(20埋セ第90号 2008.12.16) 鑑定結果通知(20教生第3250号 2009.3.30)						
要約	当該遺跡は、豊川支流の連吾川右岸丘陵端に立地する。弥生時代末期から古墳時代初頭と、平安時代から鎌倉時代の遺構・遺物が出土する集落遺跡である。特に後者の時代が遺跡の主体であり、灰釉陶器・山茶碗だけでなく緑釉陶器や白磁が出土しており、若干ながら金属滓もみられることから、交易で器物を入手しつつ生産工房を内包していた可能性が想定される。時期は10世紀初頭の設楽郡分置から設楽荘の成立と重なり、その関連が注目される。また多数出土した当該期の土師器甕について、東海地域に分布する同一器種資料の胎土分析を実施し、その高い近似性を検出することができた。いくつかのタイプごとに特定の産地から供給されていた様相がうかがえる。							

第195集 石岸遺跡

石岸遺跡は長篠・設楽原の戦いで決戦場となった連吾川左岸の東にある独立した小丘陵の東斜面に位置している。800㎡という小規模な面積の調査ながら、縄文時代中期から平安時代にかけての様々な遺構・遺物を確認した。なかでも飛鳥時代後期から奈良時代は、西側の小丘陵を削って大規模な整地を施し、B区において掘立柱建物を主体とする遺構群を確認した。特に8世紀後半に廃絶したとみられる総柱建物650SBは柱掘り方が1mを超える大規模なもので、一般集落とは異なる公的な機能を有する倉庫群の一部とみられる。

(樋上 昇)



石岸遺跡 B 区大型総柱建物 650SB および柱抜き取り穴出土遺物

報告書抄録

ふりがな	いしぎしいせき
書 名	石岸遺跡
副 書 名	
巻 次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 195 集
編著者名	樋上 昇 鬼頭 剛 蔭山誠一 川添和暁 佐々木由香 バンダリ・スダルジャン 小林克也 井上 巖
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2015 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしぎしいせき 石岸遺跡	あいちけんしんしろし 愛知県新城市 すながあざいしぎし 須長字石岸	23221	760285	34 度 55 分 39 秒	137 度 31 分 34 秒	2008.5.12 ～ 2008.9.20	800	第二東海 自動車道 横浜名古屋 線建設

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石岸遺跡	集落跡	縄文時代中期 ～後期	竪穴建物、土坑	縄文土器、石器	
		弥生時代中期	竪穴建物、溝、土坑	弥生土器	
		飛鳥～ 平安時代	掘立柱建物、竪穴建物、 溝、土坑、自然流路	須恵器、木製品、 金属製品	柱掘り方の一辺が 1m を超える大型の総柱建 物が 2 棟 官衙施設の 可能性あり

文書番号	発掘届出 (19 埋セ第 123 号 2008.4.4) 通知 (20 教生第 206 号 2008.4.18) 終了届・保管証・発見届 (20 埋セ第 123 号 2008.9.19) 鑑定結果通知 (21 教生第 315 号 2009.5.14)
------	--

要 約	豊川中流域の右岸に位置する 7 世紀後半～11 世紀の集落。A 区は自然流路・溝・ 竪穴建物・掘立柱建物からなり、B 区は分厚い整地層の上に建てられた掘立柱建物 のみ。なかでも 8 世紀後半の総柱建物 2 棟は、柱掘り方の一辺が 1m を超える巨大 なもので、一般集落よりも官衙的な機能が想定される。
-----	---

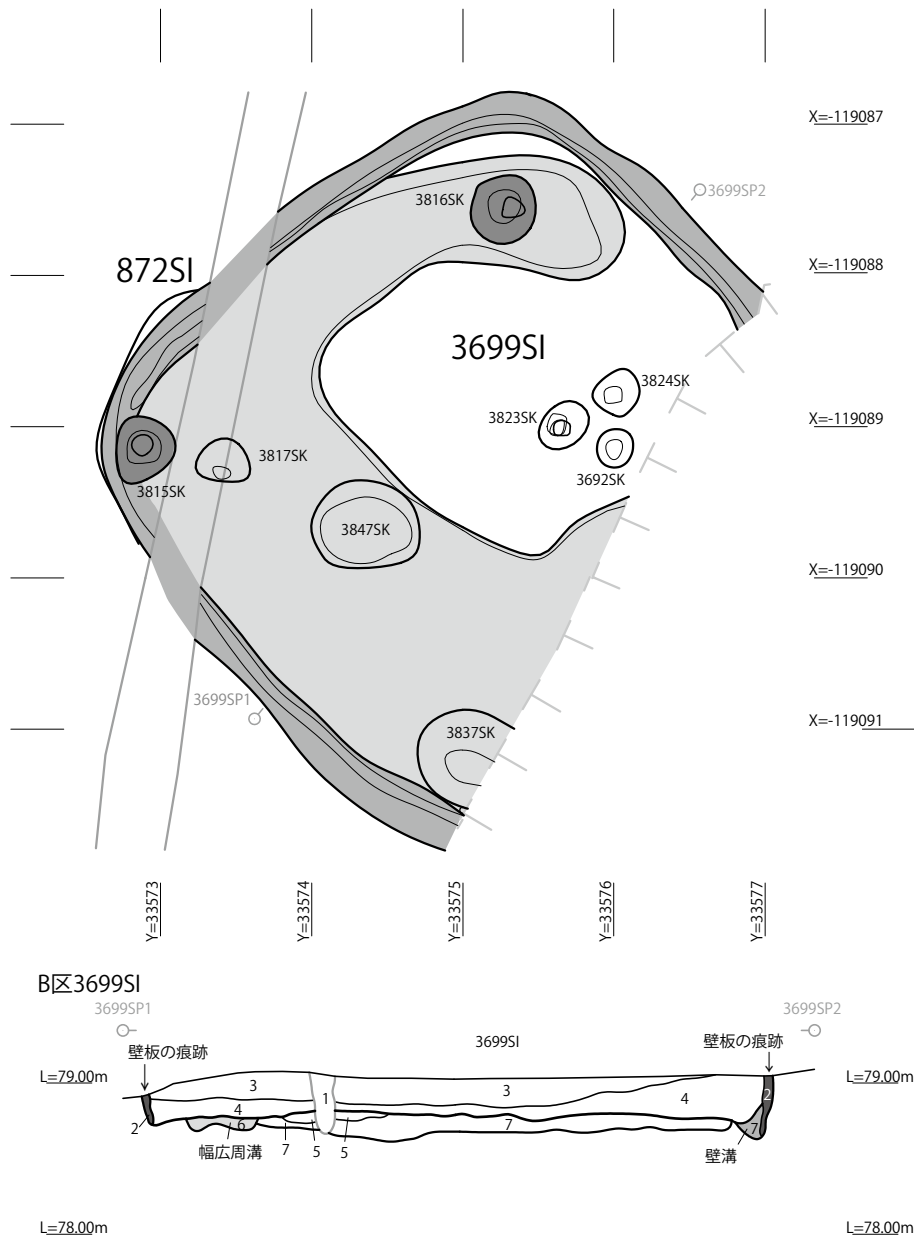
第196集 モリ下遺跡

モリ下遺跡は雁峰山から南に伸びる尾根筋のひとつで、五反田川に面した南西向きの緩やかな斜面に立地する縄文時代早期から戦国時代にかけての集落遺跡である。

縄文時代早期は押型文土器が多数出土しており、竪穴建物の可能性がある遺構も確認している。

古墳時代前期は多数の竪穴建物が展開する。規模はいずれも小さめだが、西三河に多い幅広周溝の床下施設をもつものが多数認められ、なかには壁溝に壁板痕跡を有する例も存在する。

鎌倉時代にも竪穴状遺構を主体とする遺構群が展開し、戦国時代にはこれらを溝で区画する集落に発展する。
(樋上 昇)



幅広周溝と壁板痕跡をもつ竪穴建物

報告書抄録

ふりがな	もりしたいせき
書 名	モリ下遺跡
副 書 名	
巻 次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 196 集
編著者名	樋上 昇 鬼頭 剛 蔭山誠一 川添和暁 佐々木由香 伊藤 茂 安 昭炫 佐藤正教 丹生越子 廣田正史 山形秀樹 小林紘一 バンダリ・スダルジャン Zaur Lomtadze Ineza Jorjiani 小李克也 中村賢太郎 井上 巖
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2015 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
もりしたいせき モリ下遺跡	あいちけんしんしろし 愛知県新城市 やつかほ 八束穂	23221	760286	34 度 55 分 33 秒	137 度 32 分 4 秒	2008.9.16 } 2009.3.18 2009.6.2 } 2009.12.4	6,600	第二東海 自動車道 横浜名古 屋線建設

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
モリ下遺跡	集落跡	縄文時代早期 ～後期	竪穴建物、土坑	縄文土器、石器	押型文土器
		古墳時代前期	竪穴建物、溝、土坑	土師器	幅広周溝をもつ 竪穴建物
		飛鳥～ 平安時代		須恵器	
		鎌倉～ 戦国時代	掘立柱建物、竪穴状遺構、 溝、土坑	山茶碗、陶磁器、 土師器皿金属製品	溝で区画された居住域

文書番号	発掘届出 (20 埋セ第 48 号 2008.7.30)・(21 埋セ第 18 号 2009.5.1) 通知 (20 教生第 1201 号 2008.8.14)・(21 教生第 349 号 2009.5.18) 終了届・保管証・発見届 (20 埋セ第 122 号 2009.3.19)・(21 埋セ第 90 号 2009.12.4) 鑑定結果通知 (21 教生第 314 号 2009.5.14)・(21 教生第 2175 号 2010.1.20)
------	---

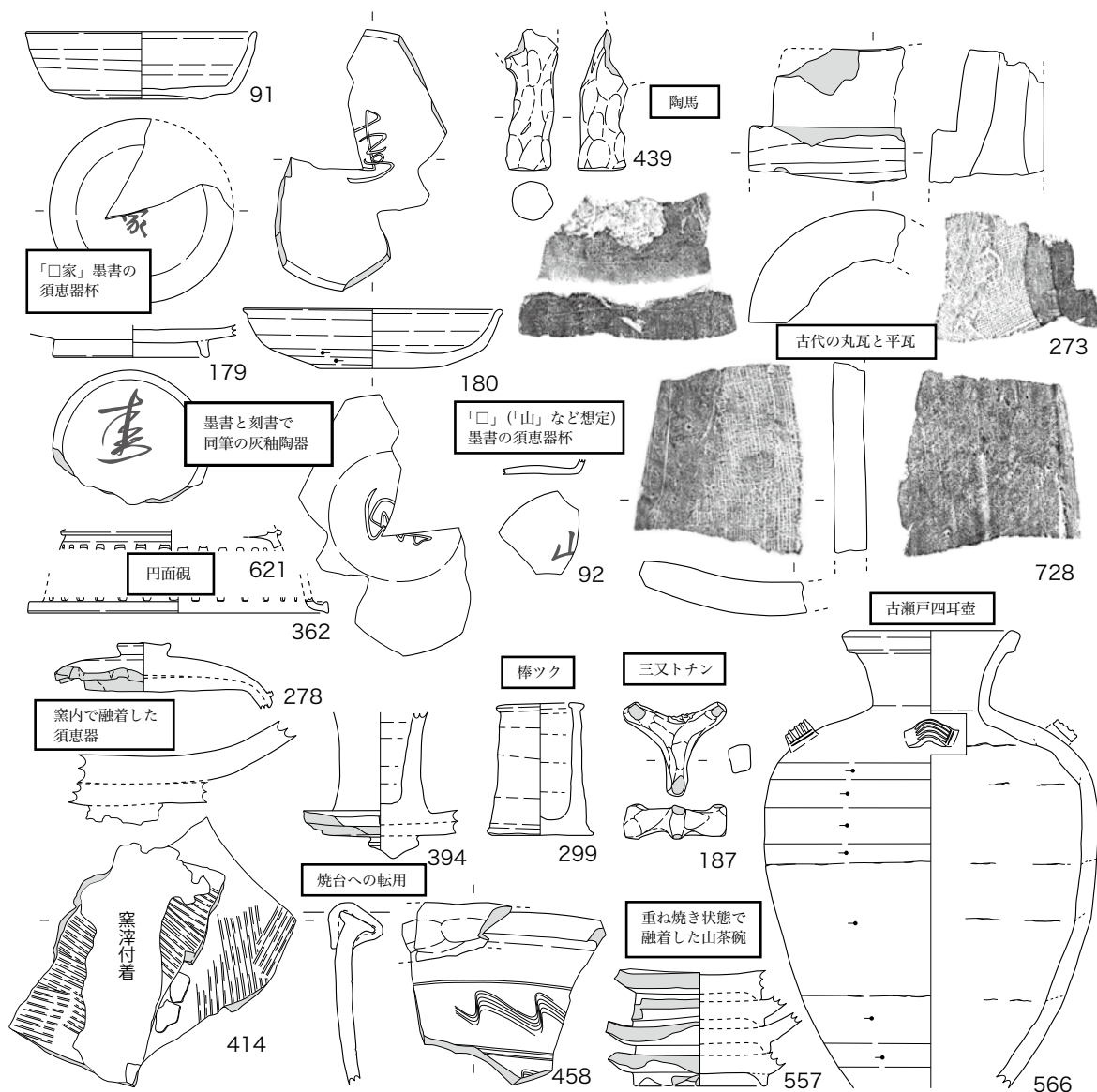
要 約	豊川中流域の右岸に位置する古墳時代前期の集落。150 棟を超える竪穴建物を を検出。なかでも数棟は床下施設としての幅広周溝や、周壁を保護する壁板の痕跡 を確認。縄文時代早期の遺跡としても貴重な事例。中世は区画溝をめぐる集落。
-----	--

第197集 薬師ヶ根遺跡

薬師ヶ根遺跡は、豊明市杓掛町に所在する古代から中世の集落遺跡である。丘陵端部上の生活域と谷地形の廃棄層に区分され、後者では井戸や、大量の須恵器・灰釉陶器・山茶碗が出土している。近隣の窯に由来する製品の検品や仕分けをおこなった場所と考えられる。

整理作業では土器・陶器の重量構成を把握しながら、個別資料の特徴を抽出することに努めた。結果、須恵器・灰釉陶器の多くで使用痕跡が認められ、検品による廃棄だけではないことが想定された。また融着破片や窯道具も含まれていることから、窯との間で物の往来があった蓋然性が高い。

さらに、「□家」などの墨書のある奈良時代末の須恵器が出土しており、窯業生産だけでなく地域の拠点的な集落としての位置づけも考えられる。具体的には、付近に想定されている古代東海道および両村駅家との関連であるが、今後周辺遺跡の検討が必要であろう。また、戸板などから転用された井戸側板の樹種同定や、中世の竪穴状遺構から出土した炭化した種実(コムギなど)の同定と炭素年代測定を実施し、前者にはヒノキだけでなく比較的入手の難しいコウヤマキを一定量含む点も注目される。(永井邦仁)

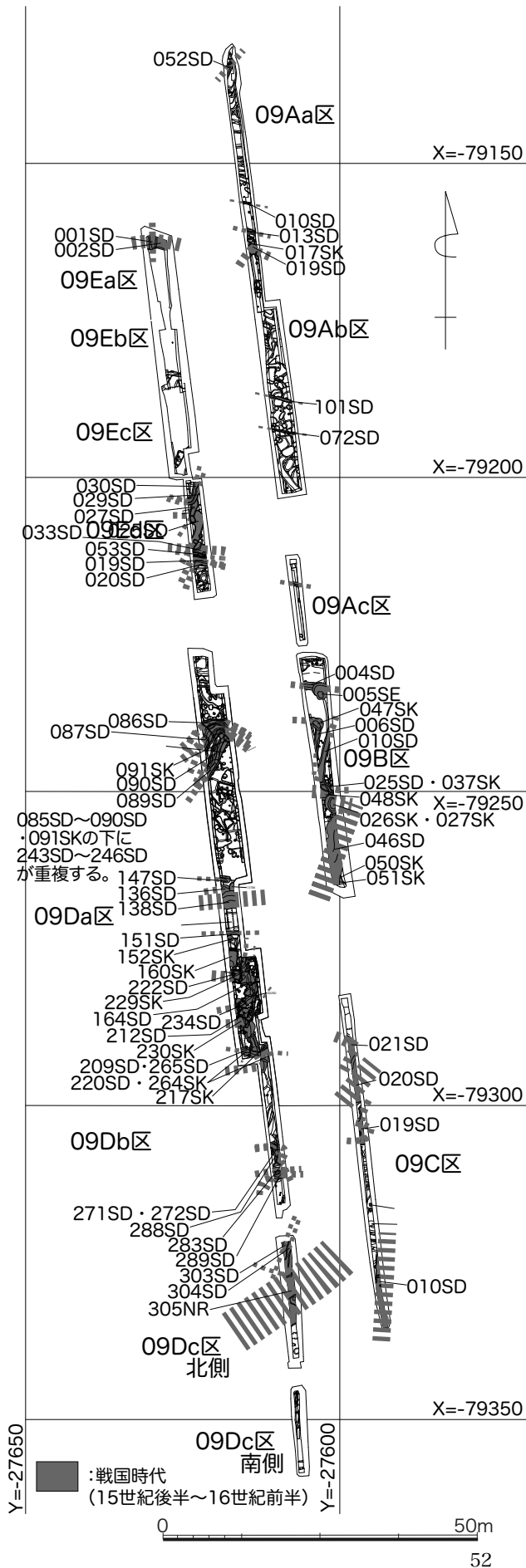


薬師ヶ根遺跡の古代・中世を特徴づける陶器類

報告書抄録

ふりがな		やくしがねいせき						
書 名		薬師ヶ根遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第197集						
編著者名		永井邦仁 鬼頭剛 (株)パレオ・ラボ年代測定分析チーム 小林克也						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2015年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
やくし が ね 薬師ヶ根 い せき 遺跡	あいちけん とよあけし 愛知県豊明市 くつかけちょう やくしがね 杓掛町薬師ヶ根	23229	120027	35度 04分 00秒	137度 01分 46秒	2006.7.24～ 2006.10.10、 2007.5.1～ 2007.6.29	1,400	県道春木 杓掛線 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
薬師ヶ根遺跡	集落	後期旧石器時代 奈良時代後期～ 平安時代 鎌倉時代～ 江戸時代	遺構なし 掘立柱建物、溝、 土器集積、井戸 溝、	ナイフ形石器、剥片 須恵器、棒ツク、土師器、 墨書土器、刻書土器、 古代瓦、融着片 灰釉陶器、三又トチン、 墨書土器、刻書土器、 山茶碗、古瀬戸(四耳壺)、 中世瓦、土師器羽釜、青磁、 白磁、古銭、鉄滓、常滑産甕			奈良時代後半から 平安時代の陶器生産に関わる集落 鎌倉時代から室町時代の 金属加工工房を伴う集落	
文書番号	発掘届出(18埋セ第21号 2006.5.25) 通知(18教生第785号 2006.7.14) 終了届・保管証・発見届(18埋セ第53号 2006.10.13) 鑑定結果通知(18教生第1843号 2006.11.24) 発掘届出(19埋セ第4号 2007.4.12) 通知(19教生第187号 2007.4.25) 終了届・保管証・発見届(19埋セ第39号 2007.7.4) 鑑定結果通知(19教生第1331号 2007.9.4)							
要約	薬師ヶ根遺跡は、境川右岸の丘陵端部に位置する奈良時代から平安時代を中心とする時期に営まれた集落遺跡である。当該期には、集落の端から谷地形にかけての凹地に、廃棄された多数の須恵器・灰釉陶器が集積出土する。これには、付近丘陵地帯の窯で生産されたものの出荷にあたり、選別を行ったものが多く含まれている。その中心は8世紀後半～9世紀後半である。また、墨書土器・刻書土器がみられるのも特徴である。これには付近を古代東海道が通過し、両村駅家が設置されたことと関係するとみられる。 また、鎌倉時代から室町時代にかけても、付近の窯で生産された山茶碗が搬入された場所と考えられる。さらに竪穴状遺構などからは鉄滓・北宋銭・土師器羽釜などが出土し、鍛冶工房の存在もうかがえる。古瀬戸四耳壺や中世瓦が出土する溝もあり、杓掛城築城以前の地域の中心であった可能性も考えられる。							

第198集 下新田遺跡



下新田遺跡は愛知県岩倉市西部にある遺跡で、今回の発掘調査では、県道名古屋江南線改良工事に伴う道路脇の限定された調査範囲であったが、主に奈良時代から江戸時代にかけての遺構と出土遺物が確認できた。

本報告書では、遺構の重複関係の検討と出土遺物の分析から、奈良時代の竪穴建物からなる集落跡、平安時代末から戦国時代の溝・掘立柱建物・井戸・土坑からなる集落跡、江戸時代の掘立柱建物からなる集落跡の遺構変遷を明らかにした。特に戦国時代には、東南東から西北西にのびる溝が並行してあり、その溝の軸線に対応する方形区画が想定できた。方形区画には、大型の溝で囲まれるものがあり、また石製茶臼の出土する区画も存在することを示した。これらの遺構について、遺跡周辺の表層地形と明治17年の地籍図の分析から、戦国時代の岩倉城跡から旧河道跡を挟んで西に立地する集落跡である景観を想定できた。

(蔭山誠一)

戦国時代における下新田遺跡の遺構 (1:1,000)

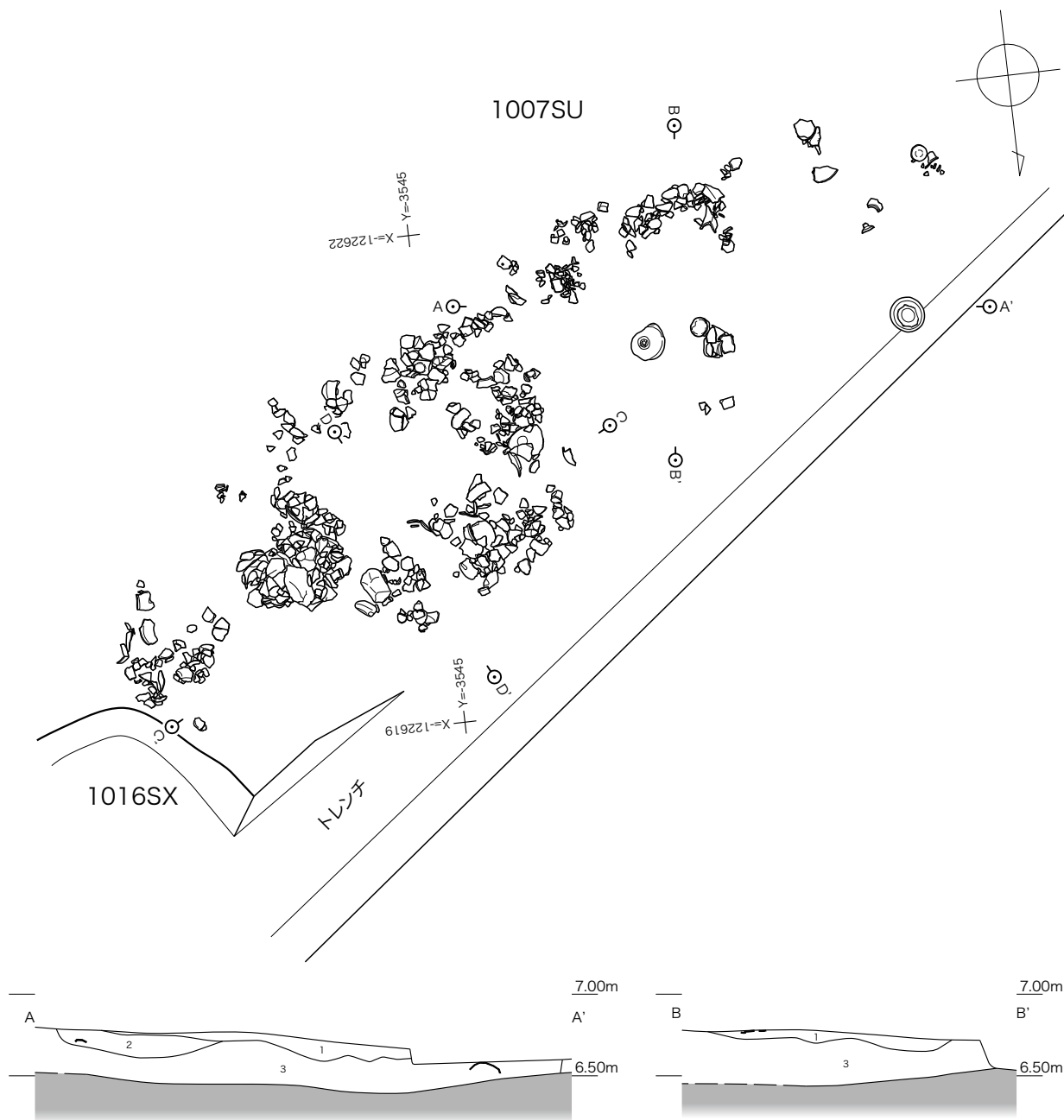
報告書抄録

ふりがな		しもしんでんいせき						
書 名		下新田遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第198集						
編著者名		蔭山誠一 鬼頭 剛						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所 在 地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2015年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
しもしんでんいせき 下新田遺跡	あいちけん いわくらし 愛知県岩倉市 すずいちょうあざしもしんでん 鈴井町字下新田	23228	110052	35度 17分 17秒	136度 51分 46秒	2009.10.11～ 2010.2.16	2,100	緊急地方 道路整備 事業(主) 名古屋江 南線建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
下新田遺跡	集落	奈良時代、 鎌倉時代、 室町時代、 戦国時代、 江戸時代	竪穴建物跡22棟、 掘立柱建物1棟、 柱列2基、溝66条、 土坑27基、井戸1基、 自然流路1条		須恵器、土師器、 製塩土器、灰釉陶器、 南部系陶器、古瀬戸陶器、 大窯陶器、中世土師器、 常滑産甕、近世陶磁器、 石製茶臼、石鏝		遺構・遺物の中心は、 奈良時代と室町時代 ～戦国時代にあり、 戦国時代の遺構は岩 倉城跡に併行する時 期のものである。	
文書番号		発掘届出(21埋セ第56号・2009.8.20) 通知(21教生第1162号・2009.8.25) 終了届・発見届・保管証(21埋セ第116号・2010.2.25) 鑑定結果通知(21教生第2717号・2010.3.29)						
要約	本遺跡は、白鳳時代から江戸時代にかけての複合遺跡で、奈良時代の竪穴建物跡を主体とする居住域が広がる時期と平安時代末～戦国時代の掘立柱建物・柱列・溝・土坑・井戸からなる居住域が広がる時期に遺跡の中心がみられる。特に戦国時代の遺構は、遺跡の南東にある岩倉城跡と併存するものであり、石製茶臼の出土にみられる喫茶などが営まれる施設が存在が想定される。今後の岩倉地域における城館跡と集落の関係を解明する上で、貴重な資料になるものと思われる。							

第200集 八畝畑遺跡

八畝畑遺跡は岡崎市南西部に所在し、矢作川及びその支流によって形成された氾濫原の沖積地に立地する。調査では、第1面において古代の竪穴建物、掘立柱建物、中世の井戸等が確認され、第2面においては古墳時代初頭から前期と思われる竪穴建物、土坑、遺物集積、自然流路等が確認された。

(松田 訓)



八畝畑遺跡土器集積 1007SU 平面・断面図

報告書抄録

ふりがな	やせばたいせき
書 名	八畝畑遺跡
副 書 名	
巻 次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第200集
編著者名	松田 訓 宮腰健司 パレオ・ラボ株式会社
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 8 0 2 - 2 4 TEL0567(67)4161
発行年月日	西暦 2015年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やせばたいせき 八畝畑遺跡	あいちけんおかざき 愛知県岡崎 ししょうなまち ふき 市正名町吹 の やせばた 野・八畝畑	23202	510326	34度 53分 28秒	137度 7分 51秒	2013.05.07 ～ 2013.10.29	3500	岡崎碧南線 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八畝畑遺跡	集落ほか	古墳 ～中世	竪穴建物 土坑、井戸	古式土師器 須恵器	

文書番号	発掘届出（25埋セ第1号 2013.4.1） 通知（25教生第149号 2013.4.16） 終了届・発見届・保管証（25埋セ第92号 2013.10.29） 鑑定結果通知（25教社第611号 2013.11.14）
------	---

要約	本遺跡は矢作川及びその支流によって形成された沖積地に立地し、洪水性堆積層に覆われた古墳時代の遺物集積や、弥生時代後期から古墳時代前期の土坑、竪穴建物跡、溝などを検出した。これらの上面からは、古代の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑などのほか、中世の井戸も検出され、居住域が想定される。本遺跡は、沖積地上に展開する遺跡群に含まれているものと思われ、周辺の集落遺跡を含めた実態を解明する上で、貴重な資料として位置づけることができよう。
----	---

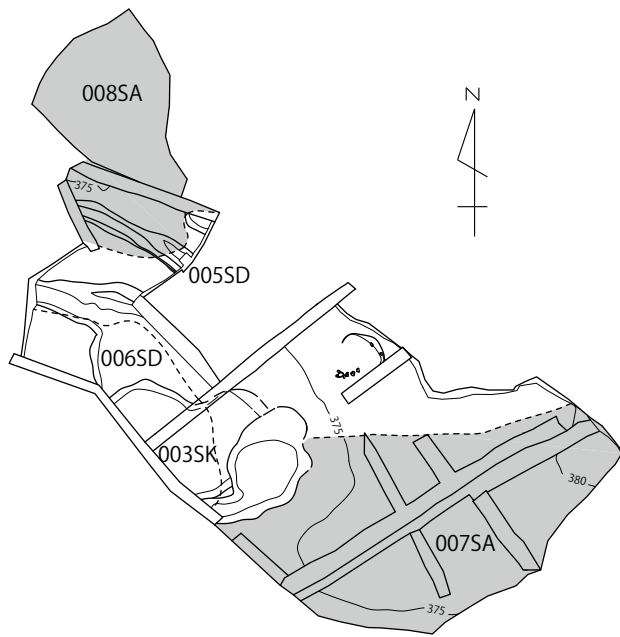
第201集 大平本城

発掘調査は、急傾斜地崩壊対策事業に伴うもので、愛知県教育委員会を通して委託を受けた愛知県埋蔵文化財センターが実施した。調査は、面積310㎡。調査期間は平成23(2012)年10月～11月である。

大平本城の眼下には県道19号線(土岐足助線)が南北に伸びる。路面(標高360m)と調査区との比高は14m(路面と主郭の比高は36m)をはかる。昭和39(1964)年刊行の『小原村誌』は、大内下総守久政の居城とし、文正元(1466)年に岩津城主松平信光の攻撃により落城したと記述する。

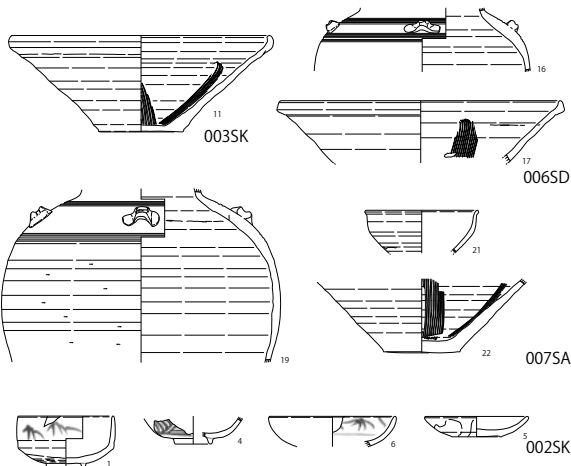
今回の調査区は大平本城の南側斜面となる小規模な三段の平坦とその間の斜面となる。

調査の結果、下段の平坦面で東西に土塁が検出された。全面と背面が急峻な斜面となり、大平本城の南側の平坦面の一部であったと考えられる。(池本正明)



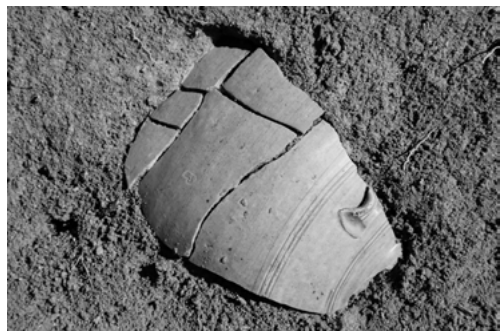
主要遺構 1:300

0 10m



出土遺物 1:8

0 10cm



大平本城の遺構および出土遺物

報告書抄録

ふりがな	おおだいらほんじょう
書 名	大平本城
副 書 名	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第201集
編著者名	池本正明
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017 愛知県弥富市前ケ須町野方802-24 TEL 0567 (67) 4161
発行年月日	西暦2015年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおだいらほんじょう 大平本城	とよたしおおだいらちょう 豊田市大平町 しもやしき 下屋敷	23211	663001	35度 15分 7秒	137度 14分 46秒	2012.10.4 ～ 2012.11.30	310	急傾斜地 崩壊対策事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大平本城	城館	戦国時代	土塁	施釉陶器・土師器	

文書番号	発掘届出（23埋セ72号 2011.8.23） 通知（23教生1561号 2011.10.11） 修了届・保管証・発見届（23埋セ125号 2011.11.30） 鑑定通知（24豊教2824号 2012.4.6）
------	---

要 約	土塁007SA・08SAに東西を挟まれた平坦面を確認した。南北は急峻な斜面となり、曲輪と考えられる。 南側は造成土により拡張されており、この部分からは15世紀後半頃に属する古瀬戸播鉢片が出土している。
-----	---